

わが国の温室効果ガス排出量の実態について

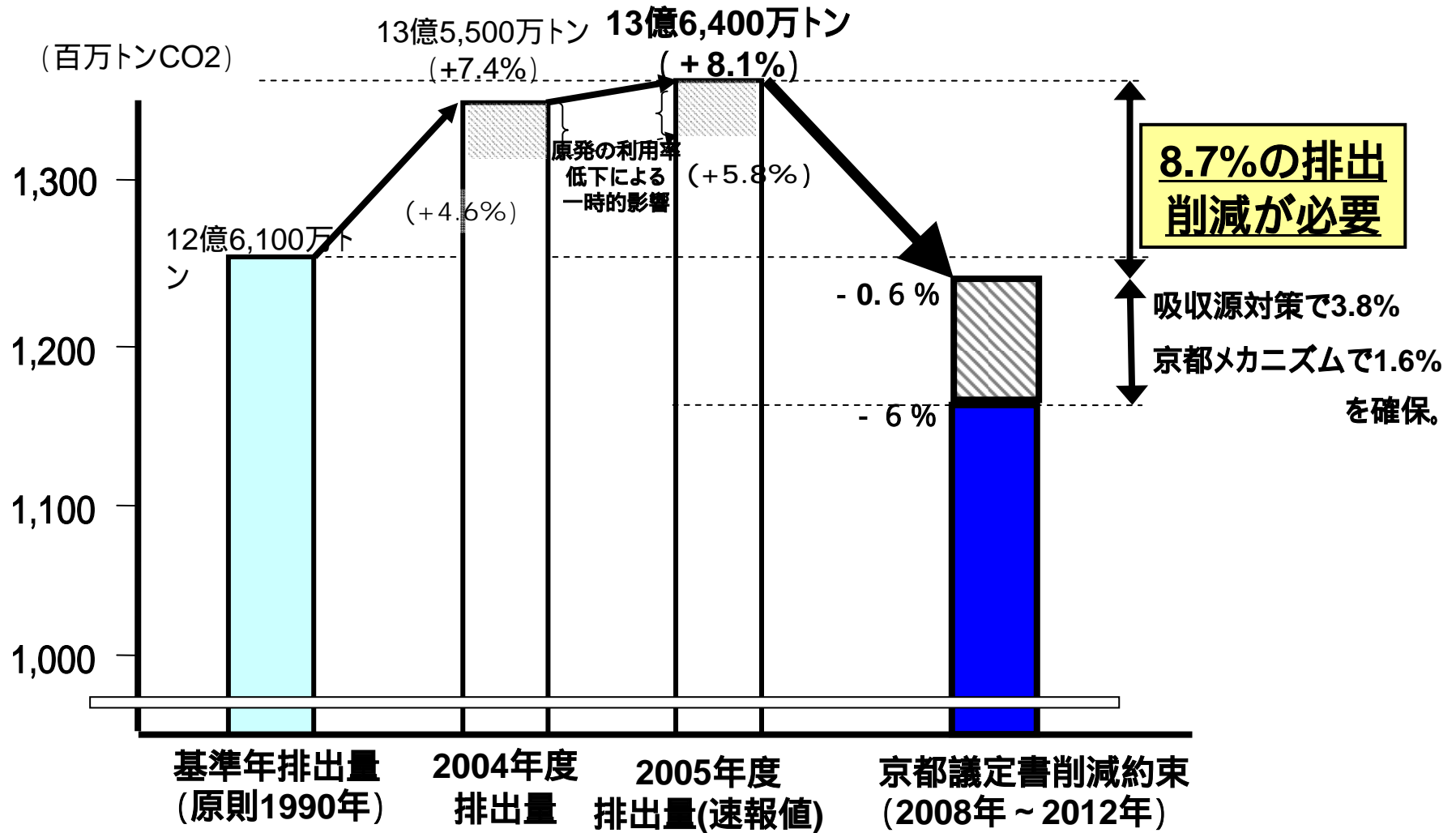
平成18年11月



国土交通省

1. わが国の温室効果ガス排出量

- 2005年度(速報)における我が国の排出量は、基準年(1990年度)比8.1%上回る。
- 議定書の6%削減約束の達成には、8.7%の排出削減が必要。



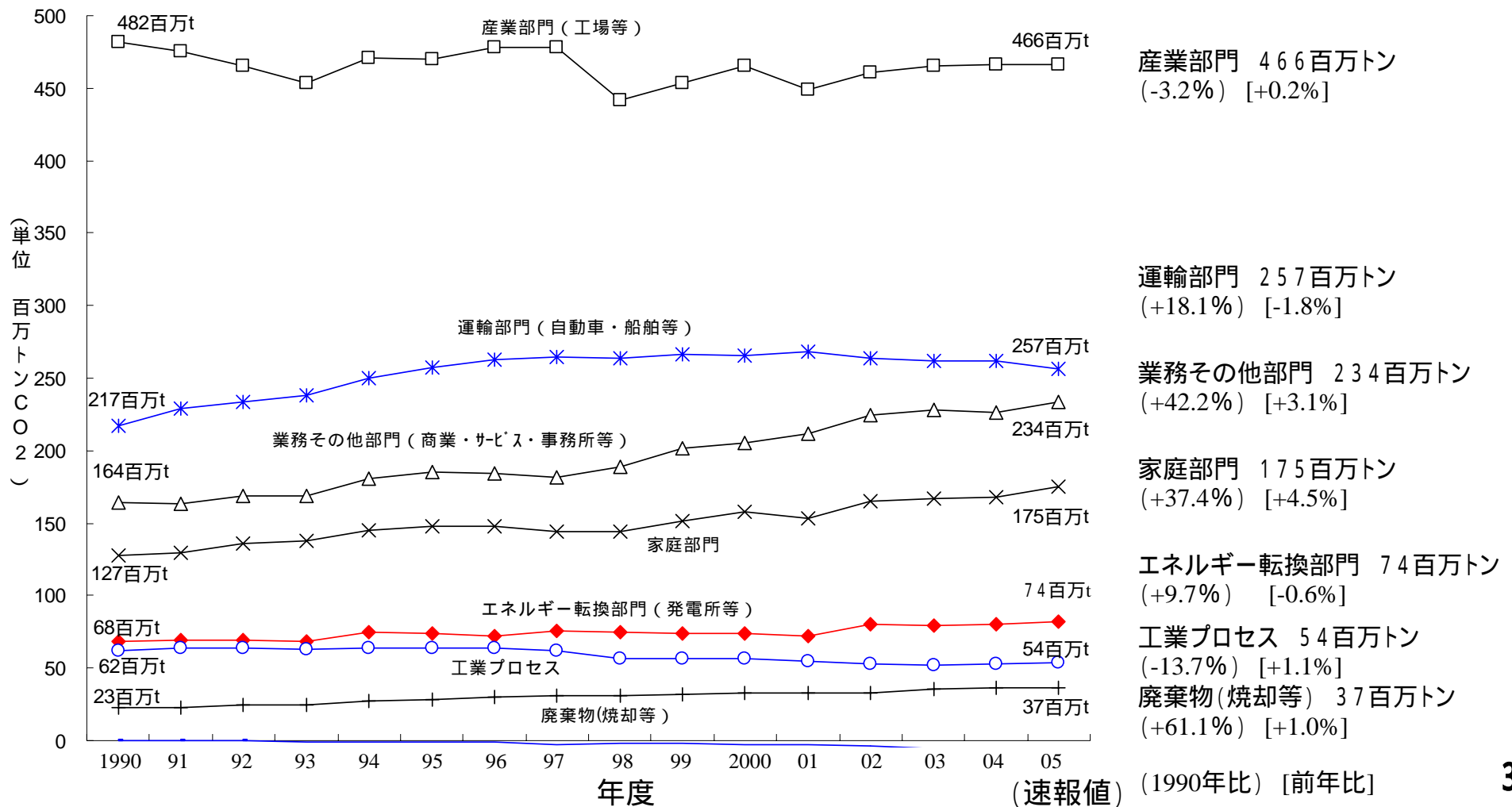
温室効果ガスの排出抑制・吸収の量の目標

区 分	1990年	2005年(速報値)		(参考) 目標達成計画における目標(2010年)		
	百万t-CO2 (a)	百万t-CO2 (b)	部門毎の 基準年比 ((b-a)/a)	百万t-CO2	部門毎の 基準年比	基準年 総排出量比
1. 温室効果ガス排出量	1261	1364	8.1%	1231	-	-0.5%
エネルギー起源CO2	1059	1206	13.9%	1056	-	0.6%
産業部門	482	466	-3.2%	435	-8.6%	-
運輸部門	217	257	18.1%	250	15.1%	
民生部門	292	409	40.1%	302	10.7%	
家庭部門	127	175	37.4%	137	6.0%	
業務その他部門	164	234	42.2%	165	15.0%	
エネルギー転換部門	68.3	74.4	9.7%	69	-16.1%	
非エネルギー起源CO2	85.1	90.4	6.3%	70	-	-0.3%
メタン	33.4	24.2	-27.6%	20	-	-0.4%
一酸化二窒素	32.7	25.8	-21.3%	34	-	-0.5%
代替フロン等3ガス	51.2	16.9	-66.9%	51	-	0.1%
2. 森林吸収源対策		-		-		-3.9%
3. その他(京都メカニズム)		-		-		(-1.6%)
						計-6%

() 目標達成計画における目標値は、平成18年8月30日に環境省が公表した割当量報告書による差し替え前の数値を基準としているため、基準年比が合わないものがある

2. 部門別にみたわが国のCO2排出量

- CO2排出量は2005年度(速報値)で、12億9,700万トン。基準年(1990年度)比13.3%増。
- 産業部門では基準年比で減少する一方、業務その他、家庭、運輸部門では基準年比で増加。



3. 運輸部門におけるCO2排出量

- 2001年度以降、運輸部門からの排出量は減少傾向を示している。
- 貨物自動車は1996年度をピークにして減少、自家用乗用車は2001年度をピークに減少

